


大橋川周辺まちづくり基本方針を実現するために

検討項目別留意点 (大橋川周辺まちづくり基本方針の上・中・下流別の方針やゾーン別の方針を受け、今後、「基本計画」で検討していく項目毎に、実現へ向けた留意点を整理した。)

 <p>上流部</p>		大橋川周辺を上流部、中流部、下流部に区分し、それぞれの特性に応じた整備を行うと同時に、全体の統一と調和を図ります。 その際、大橋川だけでなく、大橋川から望むことのできる景観全体に最大限の配慮を払いつつ景観形成を行います。この場合、「景観形成」には、景観の保存、保全、創出、再生を含みます。							
		基本方針							
上流部：親水の景づくり		城下町の歴史や文化を感じさせる佇まいとにぎわいに配慮したまちづくりを行います。	大橋や柳並木の落ち着いた風情を損なうことのないまちづくりを行います。	城下町の歴史や文化を感じさせる佇まいと都市的なにぎわいと調和を実現する新しいまちづくりを行います。	生活の佇まい、都市的なにぎわいと憩い、中流部の水郷風景のうらおいを大切にするとともに、それらの間のコントラストに配慮したまちづくりを行います。	水と人、川とまちの近さを活かしたまちづくりを行います。	国際文化観光都市松江に相応しい優れた視点場の保全と創出を行います。	それぞれの地域の間の調和とつながりに配慮します。	
公共施設	河岸形状	伝統的街並みに配慮した河岸とする	柳並木の落ち着いた風情と水辺の近さを大切にした河岸とする	拠点となる親水空間を創出する河岸とする	連続した水辺空間であることを感じさせる河岸とする	水辺の近さを感じられる河岸とする	伝統的街並みを眺める場の提供や、良好な視点場に配慮した河岸とする	水辺に点在する拠点等スポットとなる場を結ぶ歩行者動線を河岸につくる	
	大橋・新大橋	大橋川の両岸を往来する南北の重要な歩行者動線として位置づける。夕日スポット、県立美術館、白潟公園、大橋、新大橋、くにびき大橋までをセットで捉え、散策しながら景観を楽しめるよう配慮する。特に大橋のデザインは歴史・文化を感じさせる風情を大切にする。大橋の検討にあたり、歴代大橋の古い資料を活用。							
	道路・交通	-	河岸沿いの道路は生活道路として位置づけ、通行規制を含め検討する	河岸沿いは歩行者優先とし、歩行者動線と車動線を分離する等、道路網の配置を検討する	内環状道路を車の主動線とし、水辺は歩行者動線を中心に、通過交通の排除を検討する				
	公園、緑地	大橋川の水の流れ、朝もや、夕日、水面の変化を楽しむための公園の配置を検討する。地域で暮らす人々や散策する人々が憩い、景観を楽しむための空間を随所に創出する。							
	港湾	-	-	既存乗船場の活用等、効果的に水上交通の拠点づくりを行う	-	-	-	-	水上交通で地域間を結ぶ拠点づくりを検討
	舟だまり	-	-	-	人々の生活と川とのかかわり(シジミ漁など)に配慮		-	-	-
土地利用	背後の土地利用	老舗旅館や飲食店等、松江の伝統である施設も構想の重要なポイントとして位置づけ配慮する		水辺を回遊する拠点となる空間を検討する	-	-	-	-	
	市街地整備	-	-	面的整備を行い、大橋川南岸に風情のある街並みを創出する	-	-	-	-	
	景観	松江の歴史・文化・伝統を感じさせる景観の保全・再生	優れた景観形成を誘導するための措置検討	-	中流部にかけての水郷風景のうらおいを大切にす	-	-	-	
活性化	商業振興	城下町としての風情を大切に伝統的な街並みを保全、再生しながら活気ある商業地となるよう配慮する		面的整備により商業振興の核となる施設を創出する	都市的な賑わいに併せ、水辺を回遊できるよう配慮する	-	良好な視点場を中心に商業振興行われるよう配慮する	-	
	観光振興	上流の4本の橋を散策しながら、城下町の風情や水辺の暮らしを感じられるよう、歩行者空間の整備と、随所で休息・休憩、景観を楽しむ場の配置を検討する。夕日スポット、県立美術館、白潟公園とも連続した水辺空間を創出する。				松江城・堀川遊覧と関連させる			良好な視点場を繋ぎ、水辺沿いを散策できるよう配慮する
	水辺の利活用	大橋北詰も回遊コースのポイントとする		回遊コースのポイントを結ぶ、水辺ネットワークとして検討する					
工事中の影響対策		工事期間の短縮と工事中の影響を最小限にとどめる 工事中も水辺を回遊できる空間が生きるように配慮する							

注)：- は、該当なしを表す



大橋川周辺まちづくり基本方針を実現するために (大橋川周辺まちづくり基本方針の実現へ向けた、コンセプトづくりを行った。)

基本コンセプト		「水都松江の水辺回遊空間」まちづくりプロジェクト						- 出雲国風土記のスケール感で繋ぐ、宍道湖・大橋川・中海の水辺回遊公園都市 -
まちづくりの具体像	岸辺の回遊コース							
	スポット：大橋							
	スポット：北岸のまちづくり							
	スポット：南岸のまちづくり							
	まち歩き回遊コース							
	水郷回遊コース							
	スポット：歴史・文化エリア							
水上回遊コース								
工事中の対策								

検討項目別留意点 (大橋川周辺まちづくり基本方針の上・中・下流別の方針やゾーン別の方針を受け、今後、「基本計画」で検討していく項目毎に、実現へ向けた留意点を整理した。)

大橋川周辺を上流部、中流部、下流部に区分し、それぞれの特性に応じた整備を行うと同時に、全体の統一と調和を図ります。 その際、大橋川だけでなく、大橋川から望むことのできる景観全体に最大限の配慮を払いつつ景観形成を行います。この場合、「景観形成」には、景観の保存、保全、創出、再生を含みます。							
基本方針							
区分	中流部：遊水の景づくり			下流部：敬水の景づくり			
	河川・水路・農地・湿地(湿性)など、自然豊かな水郷を活かした地域づくりを行います。	人々の生活と川とのかかわり(シジミ採り、魚釣り、散策等)に配慮した河岸づくりを行います。	嵩山、和久羅山などを望む、のびやかで広がりのある景観を保全します。	古代より受け継がれてきた地域の歴史・文化を学び、敬い、後世へ伝えていけるような河岸と背後地の整備と景観形成を行います。	人々の生活と川とのかかわり(矢田の渡し、魚釣り、散策等)に配慮した河岸づくりを行います。	河川・湖・農地・湿地(湿性)などが織りなす豊かな自然を活かした河岸地域とします。	
							
公共施設	河岸形状	自然豊かな水郷風景に配慮した河岸とする	人々の生活と川とのかかわりに配慮した河岸とする。	水辺に点在する拠点等、スポットとなる場を結ぶ歩行者動線を河岸につくる	多賀神社との関係、堤防と道路との関係等、背後地整備に配慮した河岸とする	人々の生活と川とのかかわりに配慮した河岸とする。	白鳥が飛来する豊かな自然を活かした河岸地域とする
	大橋・新大橋	-	-	-	-	-	-
	道路・交通	水辺は歩行者や自転車動線を中心とし、水辺を回遊できるよう配慮する			現在の交通機能は維持出来るよう配慮する。また、歩行者や自転車が水辺を回遊できるよう配慮する。		
	公園・緑地	環境学習の場として活用する等、治水上有効な遊水機能の保全にも配慮しながら景観と自然環境を損なうことのない整備を検討			多賀神社の杜や、塩楯島の杜等、歴史的・文化的資産と、豊かな自然景観に配慮する。また、河岸の一部では、ヨシ帯の整備などを検討。		
	港湾	水上交通で地域間を結ぶ拠点づくりを検討					
土地利用	舟だまり	人々の生活と川とのかかわり(シジミ漁など)に配慮	-	-	人々の生活と川とのかかわり(シジミ漁など)に配慮		
	背後の土地利用	-	-	-	-	-	-
	市街地整備	古地図、古絵図の活用					
活性化	商業振興	-	-	-	-	-	-
	観光振興	良好な視点を繋ぎ、水辺沿いを散策できるよう配慮する。また、矢田の渡しや水郷めぐりの周遊コースとの連携を検討する。					
	水辺の利活用	環境学習の場としての活用を検討する			豊かな自然と、文化的・歴史的財産を活かした水辺空間を検討する		
工事中の影響対策	工事期間の短縮と工事中の影響を最小限にとどめる						
	工事中も水辺を回遊できる空間が生きるように配慮する						

注): - は、該当なしを表す



大橋川周辺まちづくり基本方針を実現するために (大橋川周辺まちづくり基本方針の実現へ向けた、コンセプトづくりを行った。)

基本コンセプト		「水都松江の水辺回遊空間」まちづくりプロジェクト - 出雲国風土記のスケール感で繋ぐ、宍道湖・大橋川・中海の水辺回遊公園都市 -				
まちづくりの具体像	岸辺の回遊コース					
	スポット：大橋					
	スポット：北岸のまちづくり					
	スポット：南岸のまちづくり					
	まち歩き回遊コース					
	水郷回遊コース					
	スポット：歴史・文化エリア					
水上回遊コース						
工事中の対策						